



「高速移動」



うん…
まあ…はい

でね！
アナタの
能力だけどー

私の
能力よ！

何が？



ほらローズって
有名だから
能力も「身体強化」って
噂で聞いたんだけど

始めて会った時に
な〜んか
引っかけりを
覚えたというか：

なんで自分の能力を
お前にべらべら
話さなきゃ
いけないんだよ？

え〜!!

まだ名前で
呼んで
くれないんだ

ショックだわ〜

うつ：

でもまあ
そうだよ

ごめんね
気になったから
街を出る前に
聞いてこうかなって

え？



この街も
面白くて
好きなんだけど

やっぱり他の街にも
行ってみたいし
なによりー



行った事ない
場所に行くのは
ワクワクするでしょ

前しか
見てなくて
群れるのが嫌いで
一人で
どンドン
進んでっちゃう

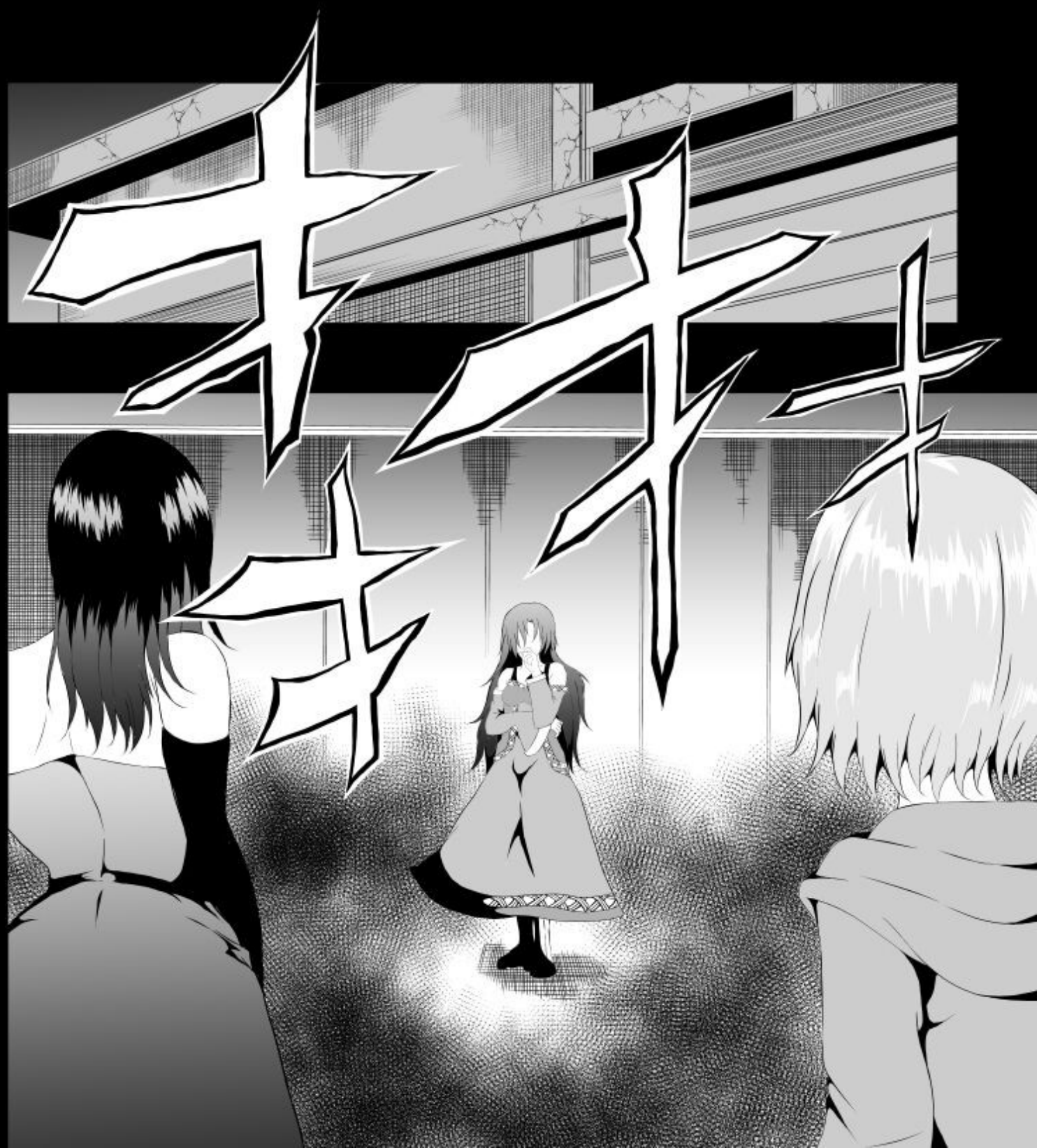


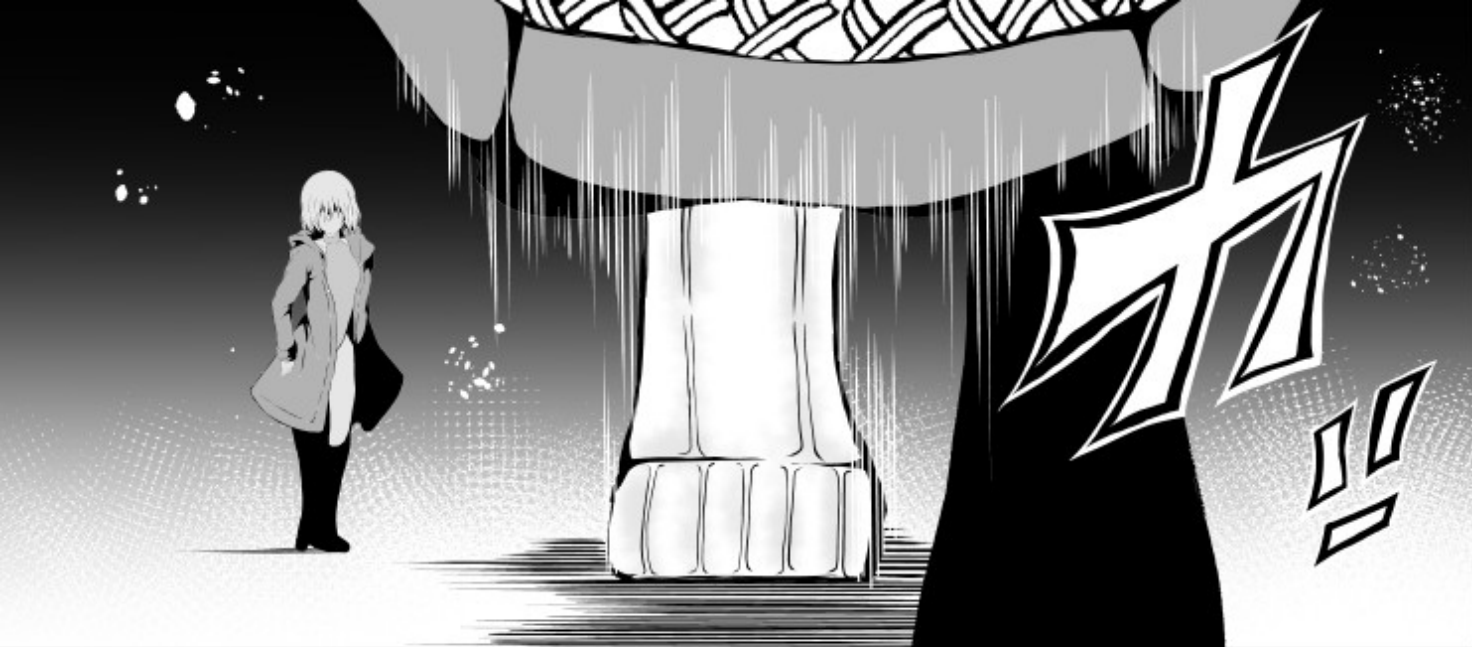
クロちゃんは
一匹狼みたい
だねえ

ロー…

そんな…

!?





—なんだコイツは..





ーちよっ

何度も
言ってるだろう

君には
ボスではなく

やれやれ

「ロベリア」
という名で
呼んでくれと

・・・
邪魔だな



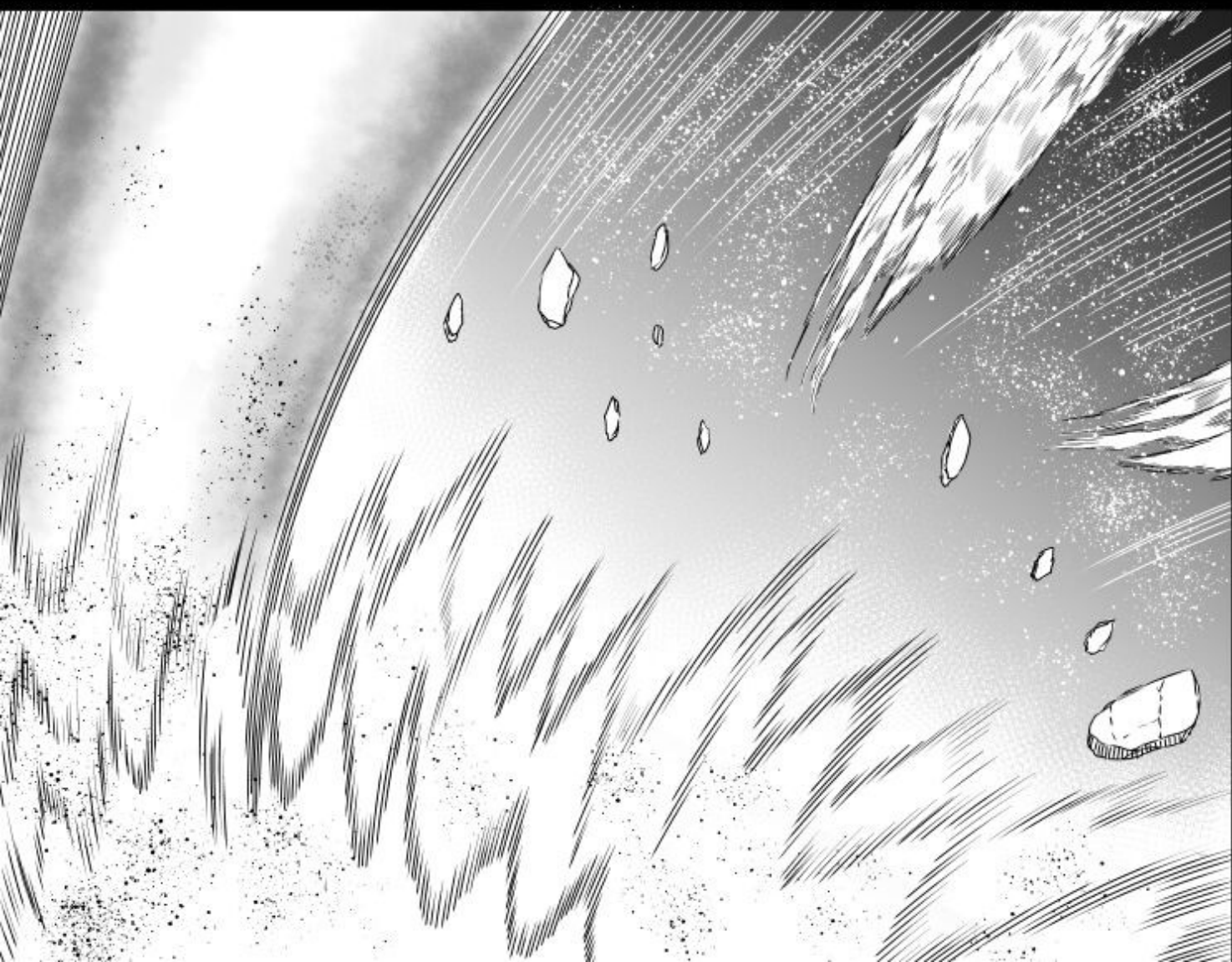
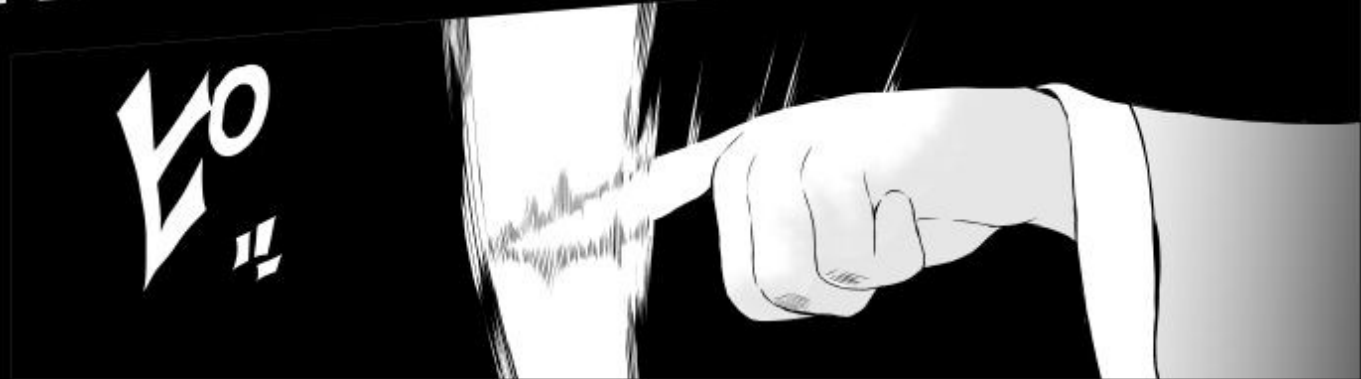
がっ
っ
!?

ク

ドサッ









本当に
腹立たしいな





お前を
見てるとー

：ああ
ダメだ



全神経が

ぐっぎ!

逆撫で
されるよ

ガガガガ



半端モノが：



ウソでしょ…

「ガイア」は
イーバの中で戦闘に
特化した特殊部隊



ローズは
その中で頂点に
いる娘なのよ

それが
手も足も出ない

子供扱いー



……ねえ
何してんの？

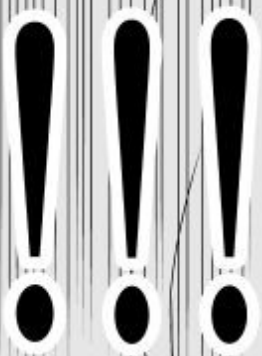
その娘
私の友達
なんだけど

……









オオオオ

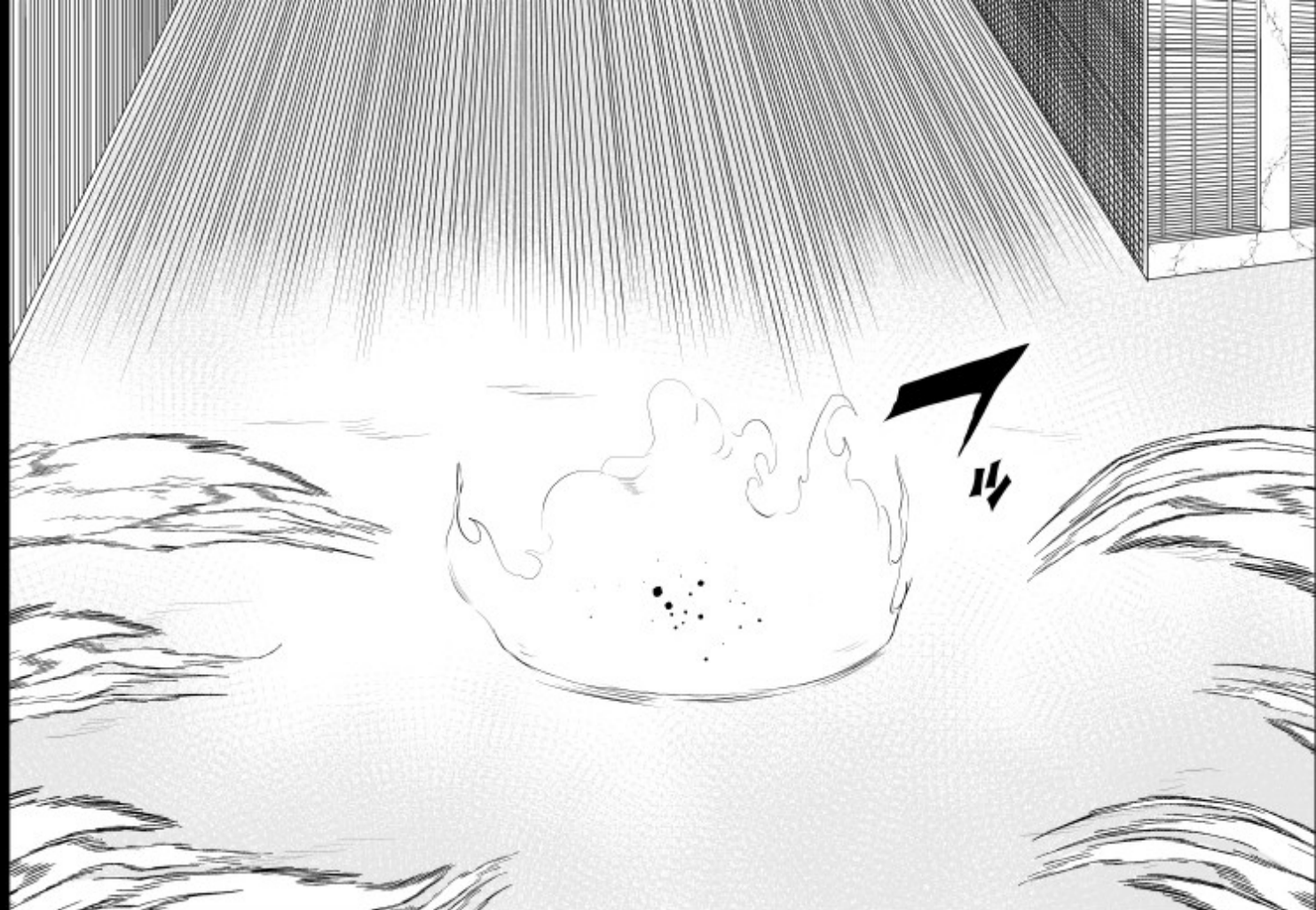
黒橡と二人だけで
会話をする

コイツ達は
お前達に
任せるよ



お任せください
ボス







ボスの
ご命令です

後を追わせる訳には
いきません



俺の眼を
潰した女は
自分がヤルぜ

ぐっ…



マズい：
アタシとビオラは
疲労困憊ー
ローズだけじゃー

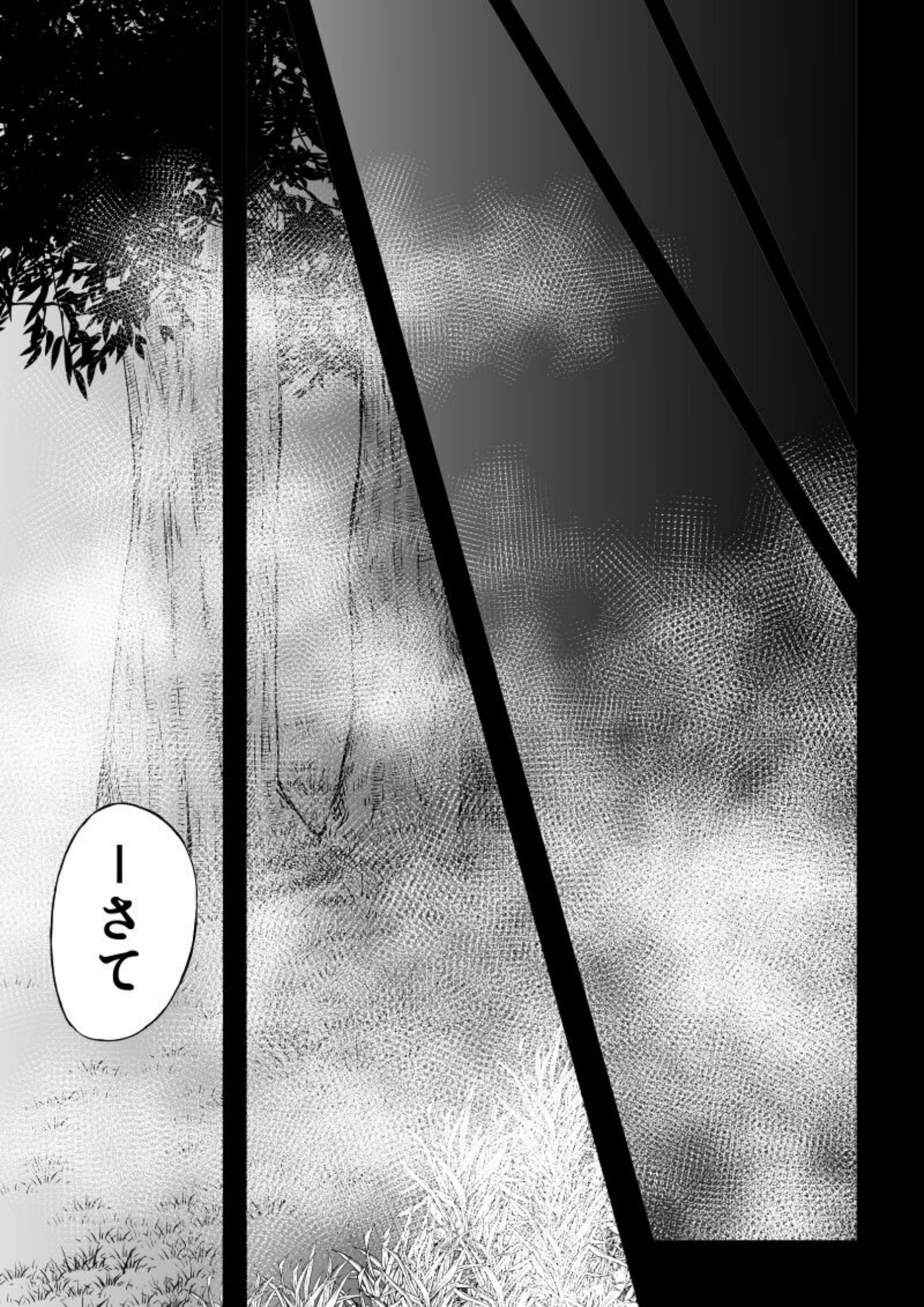
勝
で
な
い





どけよ





— 82 —



移動時に
おおかた説明は
済ませたが

どうかかな？



なにぶん
始めてなものでね

……大体
分かったわ

随分
ぶっ飛んだ事
考えるじゃない



ハチ
ハチ

ルイズの
ように上手く
できたかな？



私の右腕に
なって欲しい



それで

私に何を
求めてるの？



今現在この
星には数多の
宇宙人が来訪
している

最初こそ
お互いに
利益のある
関係性だった

しだいに
歪みが
生まれてくる



人間とイーバの
土地の取り合い

文化や
価値観の
違い

数年後には
争いは激化
するだろう

ならば我々
イーバ
(宇宙人)が――



この星を
支配した方が
良いと思わないか？





元々そういう
星だろう？



争い支配し
今現在生物の
頂点にいるのが
人間なだけのこと



…人間を
滅ぼすつもり？

まさかー



私は人間が
好きだ

国家を創り
紙幣を創り

文化を創り
神を創った

他の生命体には
ない能力

「創造力」



ソレを私が

全部壊す





そして
その隣に――

君が
いてほしい

そう……



国や街ごとに
文化が違う



食べるモノや
着ているモノ

価値観が
違う



紀元前から
何前年も経て

形付けられ
歩んできた歴史



例えソレが
争いや支配の上
での成り立ち
だとしても

私は――



私は今の
この世界が
愛おしい



その歩みが全て
水泡に帰すことにな
ろうとも？



うん

ソレを
受け入れる

相・変・わ・ら・ず
厳・し・い・ね

…君は



—ええ

—なら



レ
コ
ニ

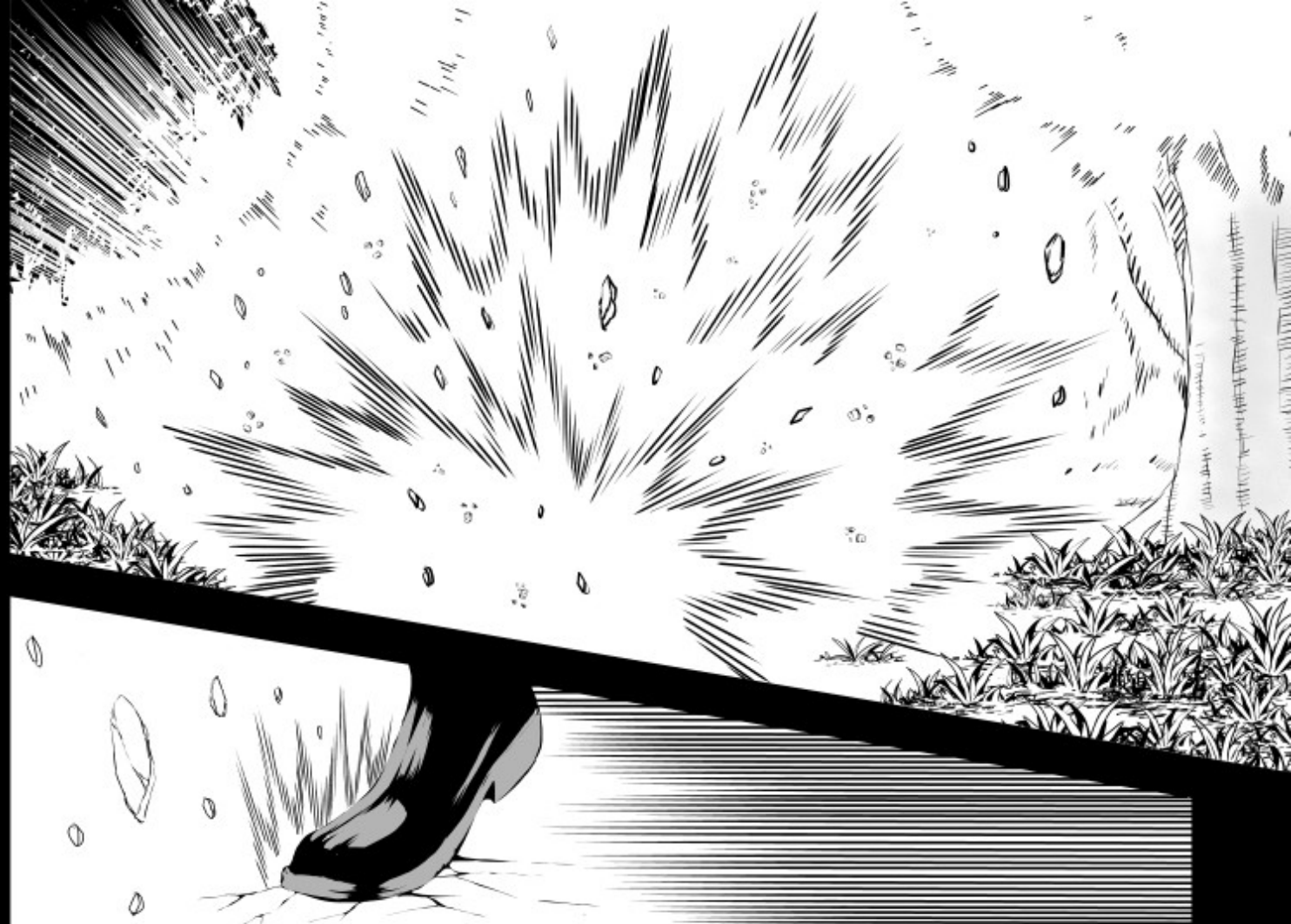
ズ
ズ
ズ

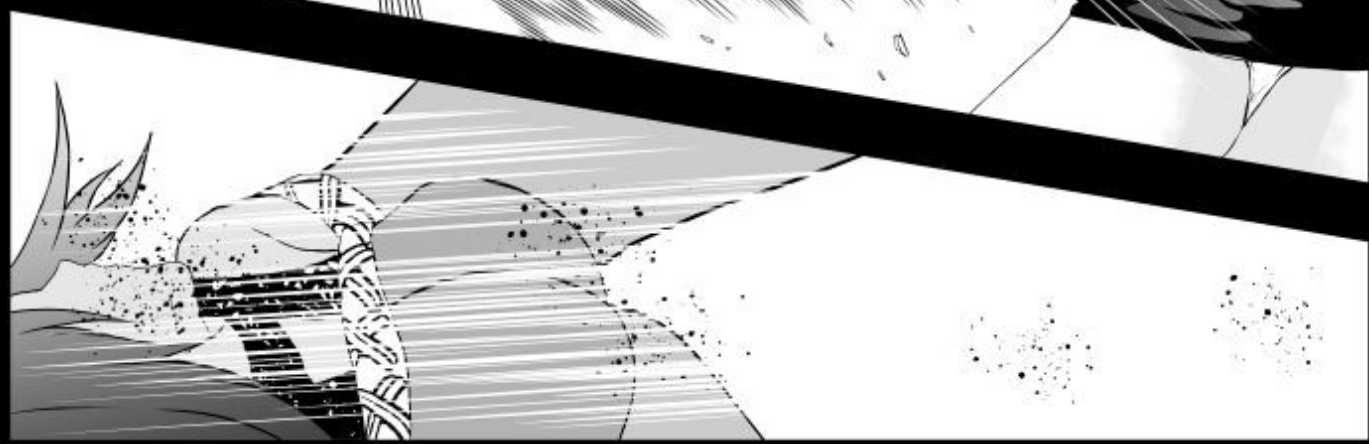
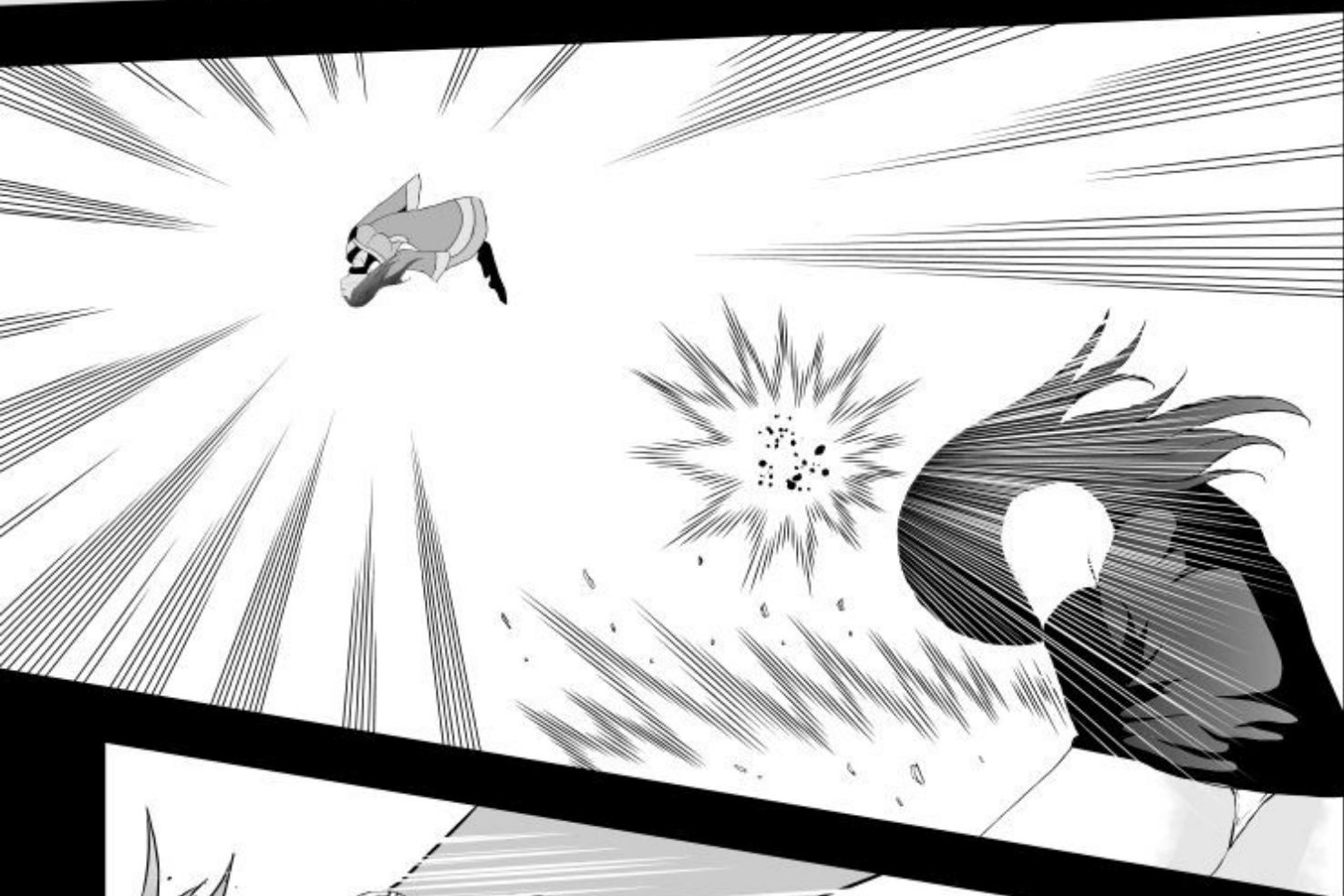


決裂だ











『
万物掌握』

嵐









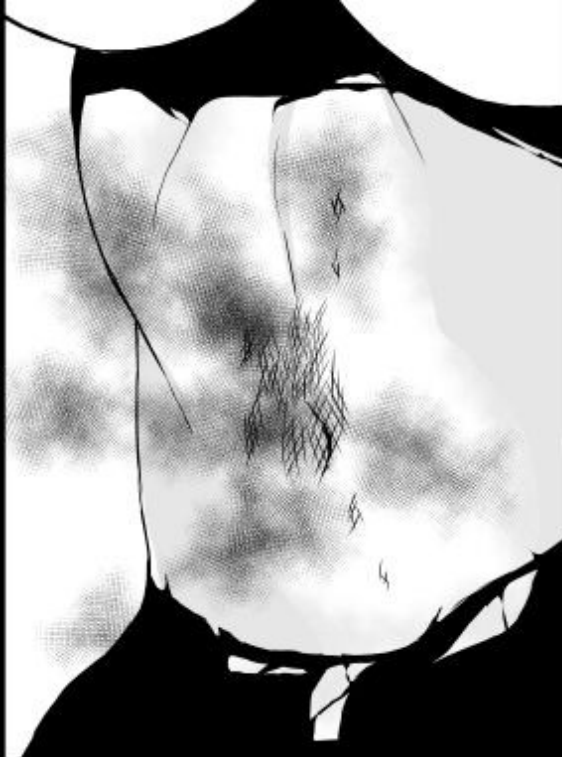


ああああ!!

がっあ!

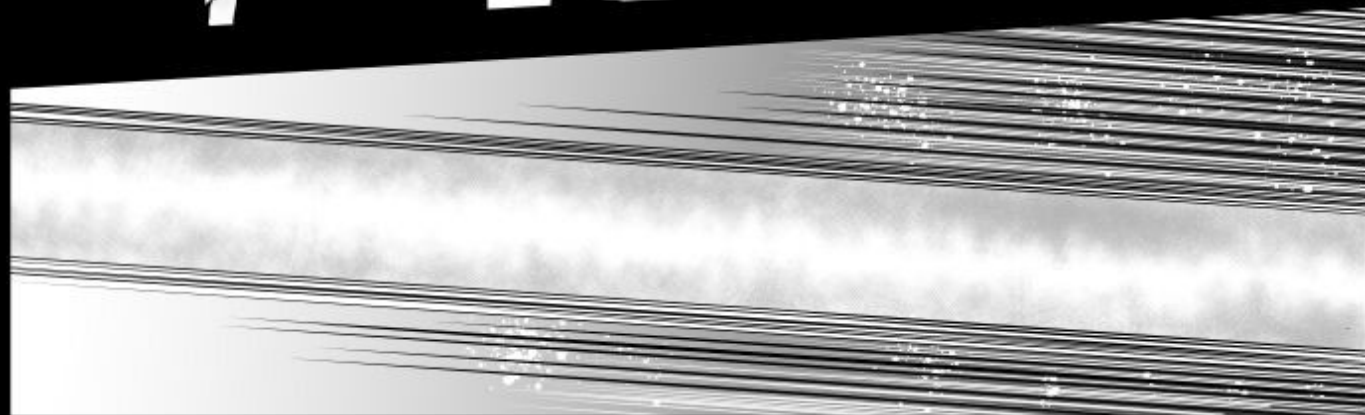






げえ...

あっ...



おえ!

ガク ガク ガク

…おっ

あう

ここまでだ…

ビク ビク

っあ…

ビク





もういいだろう？
黒橡

もういい加減

本気を見せて
くれないか？

君は
厳しすぎるんだ
相手にも
自分にも……

黒橡

……





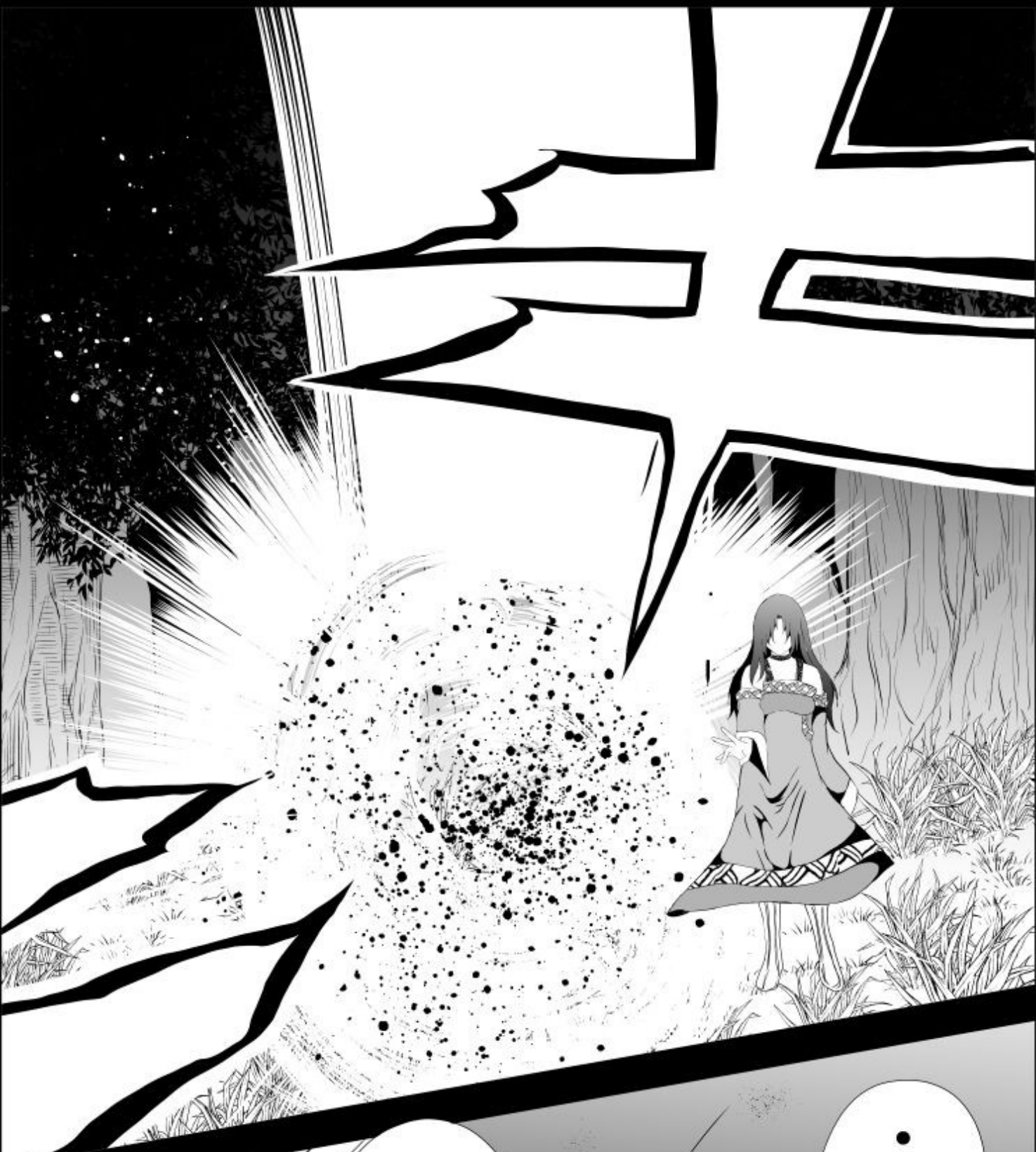




あ
あ

本当に
待ちわびたよ





：別に

手を抜いてた
訳じゃないのよ



コレを使うと
加減ができないのと
一週間程身体が
動けなくなるから



そうよね



でも……
そっか



本気で
やらないと

つまらない
ものね

フフフ

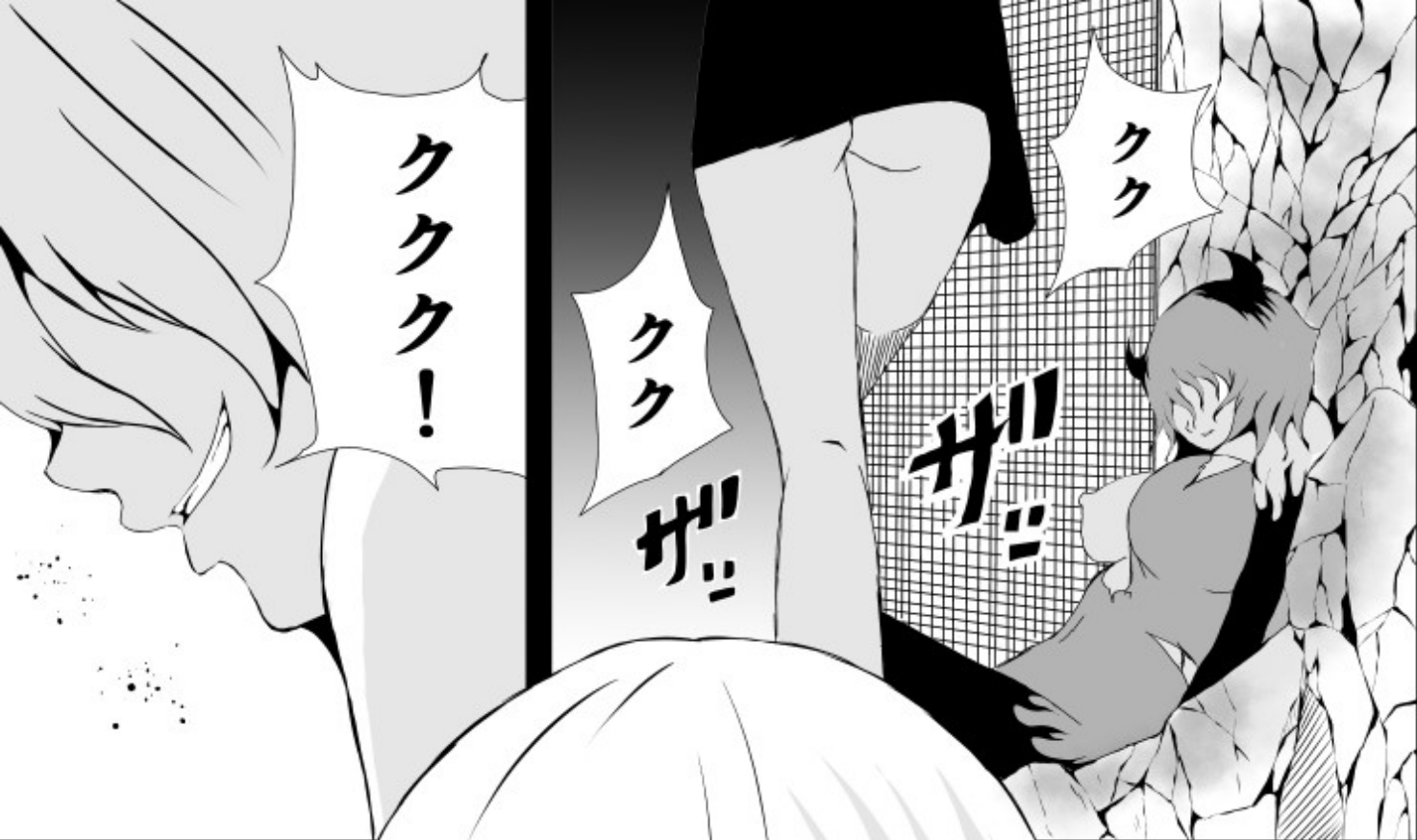
遂に
魅せてくれたね

はっ

はっ

はっ





—仲間に入れて欲しかった

人間とイーバの
ハーフのアタシは
どこにも居場所が
ないからー

皆を守るガイアの
仕事をすれば

仲間に入れて
もらえる気がした

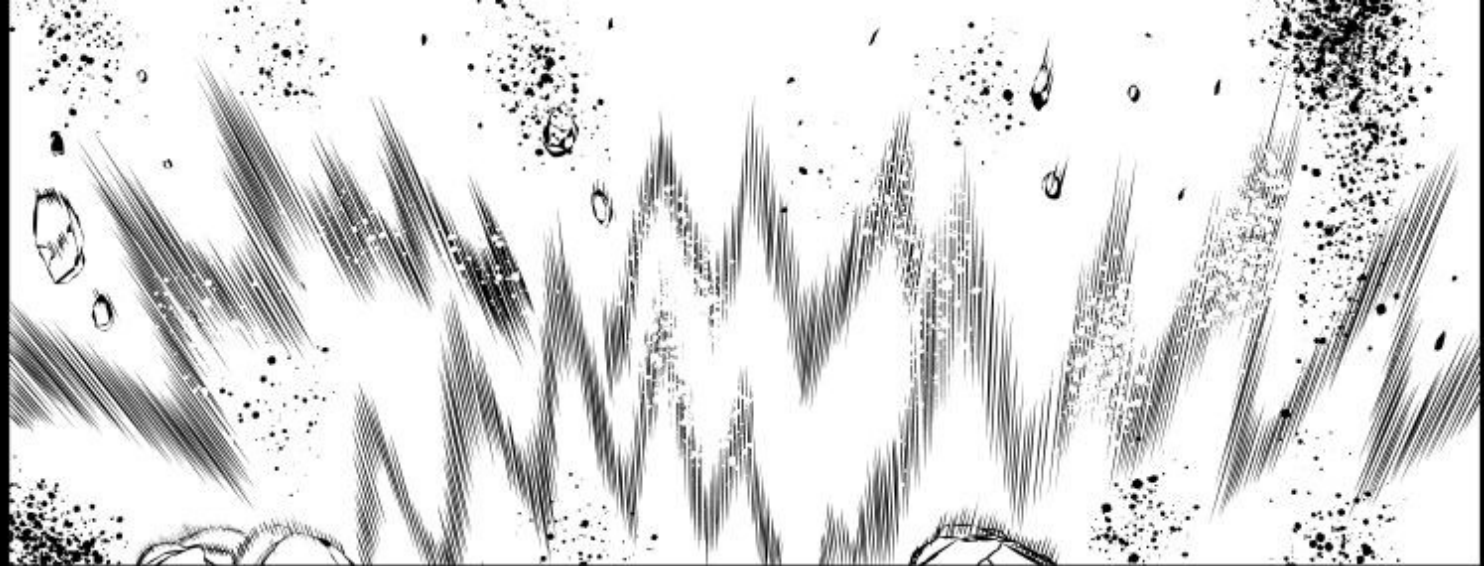
けどー

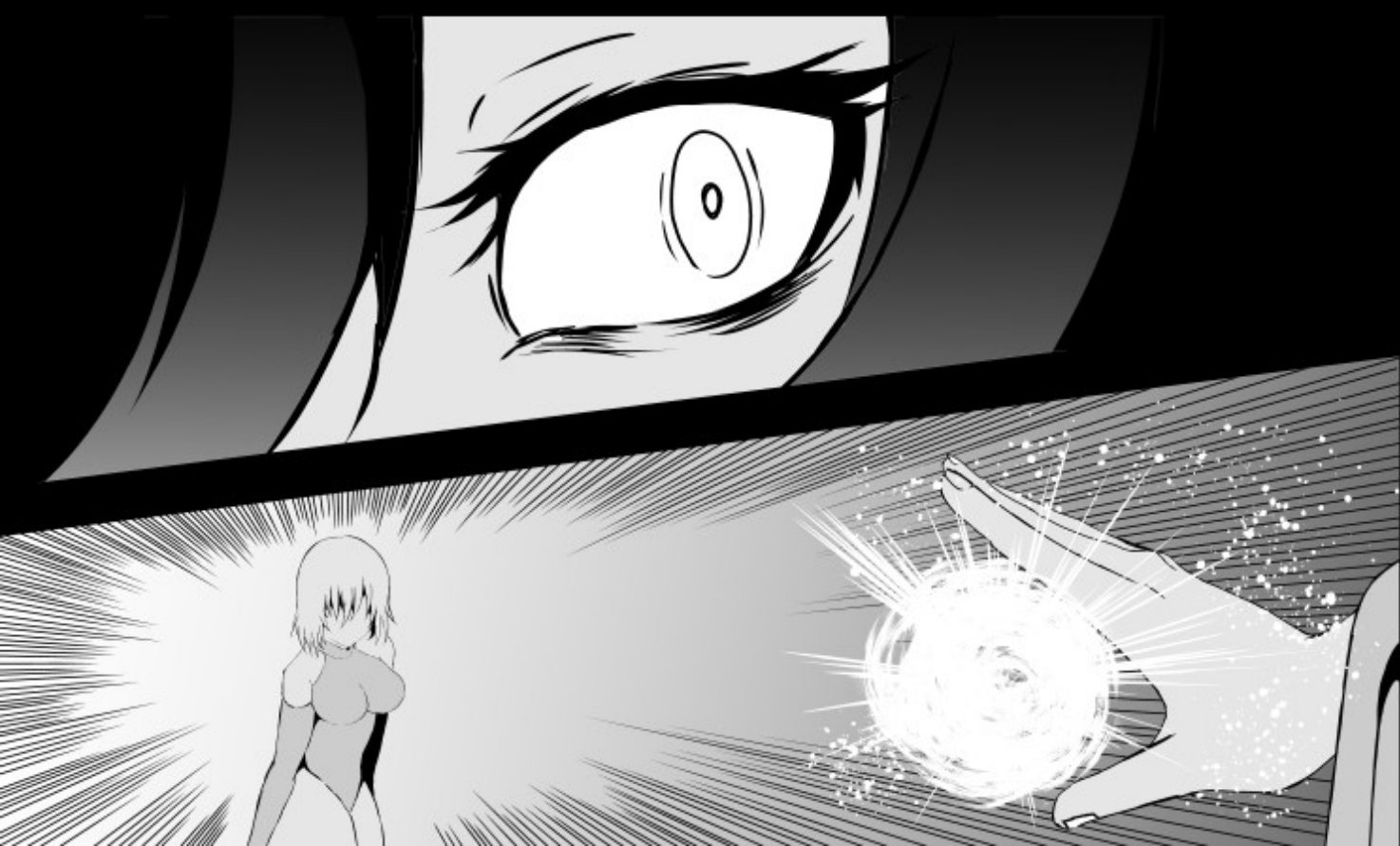
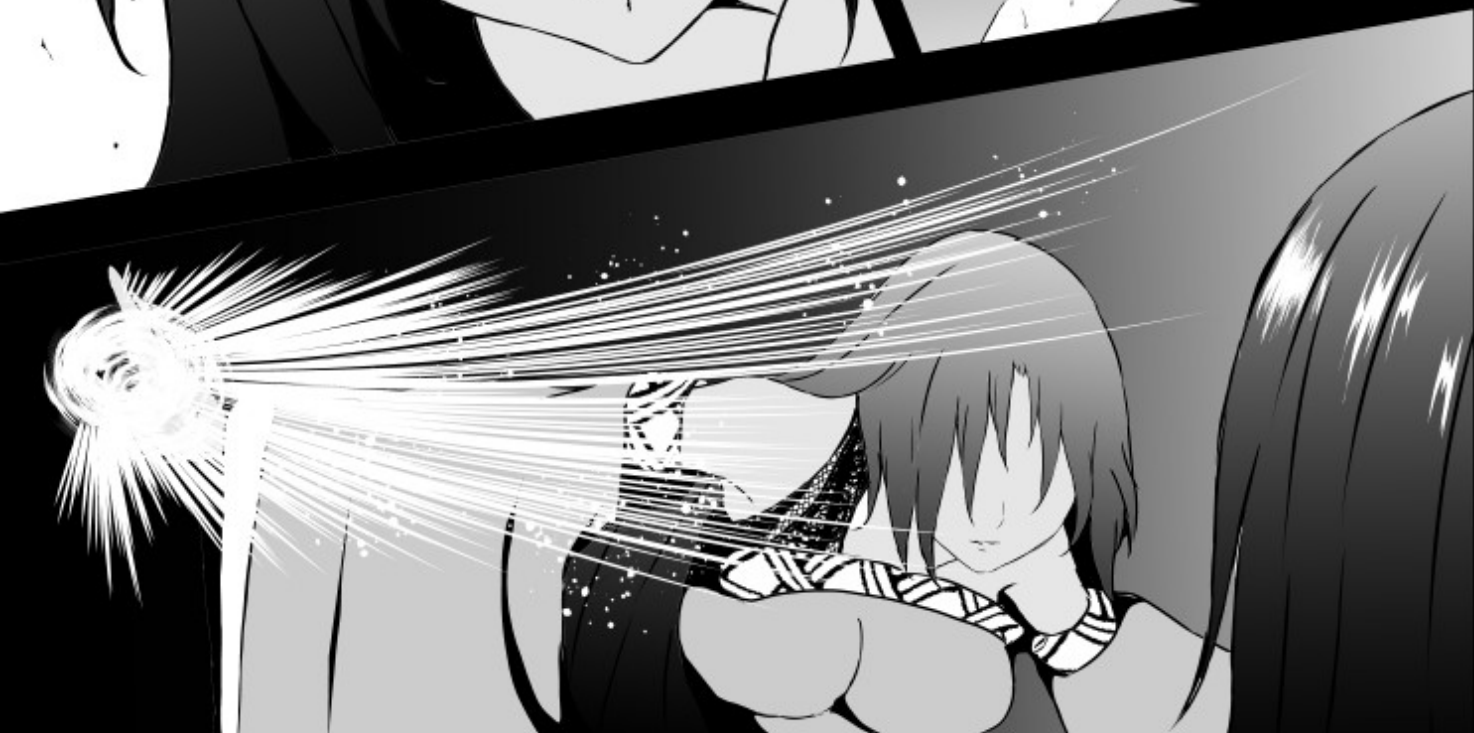
皆の為とか
仲間の為とか
世界の為とかー

気づいてしまった



…クロちゃん





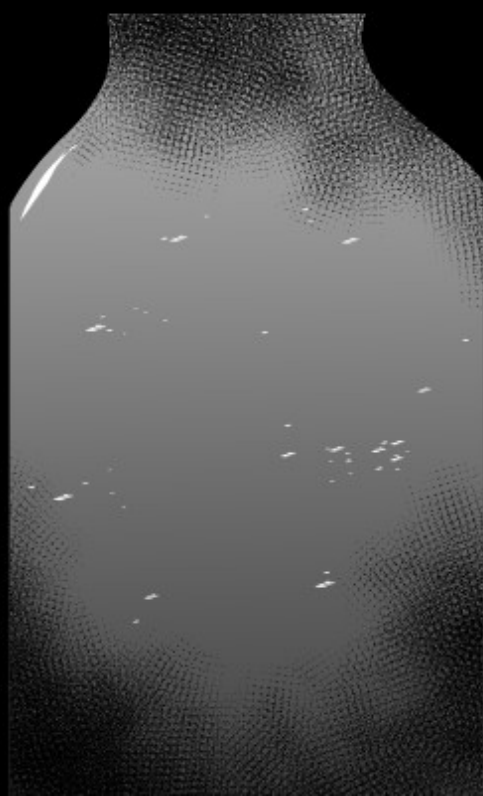


一本当は気づいてたんだ



—そんなモノ達は
全部どうでもよくて







自分にとって
生まれて
初めてできた

友達の方が
大切だったー

ご購入
ありがとうございます！



※この物語はフィクションです。
実在の人物・団体・事件などにはいっさい関係ありません。
本作品の無断転載・加工・複製を禁じます。
尚18歳未満の閲覧・購買は禁止です

サークル

Aries